

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	スナップ
Author(s)	中川, 節子
Citation	児童の言語生態研究 , 19 : 121 - 122
Issue Date	2018-10-27
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00046629
Right	
Relation	



スナツプ

報告・中川 節子

◆生活指導員（一年生の入学時の生活面の補助をする）として四月五月と二ヶ月一年生と過ごした時のスナツプです。

○入学二日目トイレの使い方の方の指導のとき、

下からのぞきこんでいた女の子が、

「先生、鼻毛が出ています。」

他の子たちも口々に「鼻毛」「鼻毛」と言う。

〈今、のばしているところなの〉

「のばすなんて、へん。」

「お父さんみたい。」

○トイレの使い方Ⅱ

〈誰か見本でやるまねしてみて〉

やるやるとはりきるK子さん、よいしょと

脱ごうとする。

〈おっと、やめて、まねするだけよ〉

K子「だいじょうぶ、私できるから。」

〈それは恥しいでしょ〉

K子「ぜんぜん、へいきだよ。」

C子「見てる方がへいきじゃないよ。」

○四日目、R君、きょうはいい子

桜吹雪の日、

「先生、花びらかみの毛についてるよ。」

と言つて取つてくれる。

〈ありがとう〉

と言つと、ぴよんぴよんとんでいく。

○さよならのあと昇降口からもどつて来たK

君、

〈どうしたの？〉

「わすれもの。」

〈あら、何？〉

「ランドセルしよつたらわかつたよ。ノ

トと教科書わすれたこと。」

○もじもじしているH君

「トイレ行つてもいいですか」

〈いいわよ〉

「あの、うんちなんですけど、いいです

か。」

〈うんちでも何でもどうぞ〉

「あの、うんちなんだけど。」

〈ごゆつくり〉

「やだなあ…」

○Y先生がソーラン節の踊りの見本をやつて

いる時、おヘソが出た。

「あつ、おヘソ、おヘソだ。」

「オヘソ、見えた」

「ヘソだ!!」と、口々に叫ぶ子

〈あら、やだ見えちゃつた。こうやつて、

しまつて〉

と、ズボンの中にシャツを入れる先生。

見ていた子、

「ぼくも出るよ」「ぼくだつて」「わたしも出

るよ。」皆、ヘソを出して得意顔。

しばらくは、ヘソの見せ合い。

○遠足(1)

歩きながら、しゃべりつ放しのS君、

〈もう、うるさいからY先生(担任)に言

いつける〉

と言つと、

「うん、言つて。S君は、かしこくて、

かつこうよくて、あたまもよくて、かけっ

こもはやくて、べんきょうもできて、絵も

じょうずで、それから、それから、とつて

もいい子です。つて、言いつけてよ。」

○遠足(2)

いつもウロチョロしているR君、スタンプ

ラリー開始とともに、グループとは反对方

向に走り出し、はぐれる。

やつと十分後に合流。

しおりの目あてには、迷子にならない。

と書いてあつた。

○運動会の練習の毎日

主任の先生が、皆が踊りをやり終わった後

〈皆さんは、素晴らしい、きょうも新しい事
やったのに出来てしまった。すばらしい〉
と、すばらしい、を連発する。

C1「すばらしい、って何がだ?」

C2「よくわかんない。」

C3「すばらしいは、つかれるよ。」

○運動会(1)

踊りながら玉入れする。

「エビ・カニ」「エビ・カニ」と言いなが
ら、早口で歌い、その後玉入れ、

「エビ・タマ」「カニ・タマ」
になっていた。

○運動会(2)

椅子を片付ける時、昇降口で椅子の足をふ
いてあげる。

C君「なんか、くすぐったいなあ。」

○最近慣れてきて、悪さをする子がいる。

〈こらーだめだろう。そんなことしちや、
おい!〉

R君「あ、悪いことばつかつている。い
けないんだ。」

〈悪いこととした時は、悪い言葉になっちゃ
うよ〉

Hさん「そうよ、ママだうて、すごいこと
ば使うよ。」

Iさん「それで、あんたのためって、さい
ごに言うよ。」

○R君とA君、教室の前のドアを開けようと
するが、開かない。

〈正直者だけが開けられる〉

しばらくたたずみ、あきらめ後ろのドアに
行くR君。

〈もう、あきらめたのかい〉

A君しばらく考え、力を込め開ける。開く。

C子「正直者だ。」

(以上、南第四小・一年男女)

◆三年・六年・授業スナップ

○谷内六郎の絵「遠い除夜の鐘」を見て、
「大晦日から初春へ」と題して書いた文

二十十年十二月三十一日午後十一時五十九
分五十九秒。

長く感じる一秒がすぎ、はるか遠くで除夜
の鐘が響いた。

夜ふかしをした人たちが新年のあいさつを
する。

子どもは一秒前の去年を思う

(小川小・三年男子)

○「未知へ」という詩の授業のあと私の未知
を書かせた。

未知へ

次の瞬間

誰が何をして

その何かを見て

誰がどうして

結果、どのくらいの人か

どうなってしまうのか。

その瞬間、瞬間が

未知である

(南四小・六年男子)

この授業の後、発表する音楽「君の名は
――前々々世――」をリコーダーで吹き歌い始
めた。

A君「これも、未知じゃねえ」と一声。

(南四小・六年男)

○道徳の時間に、「人生とは」を定義付けを
した。

・必ずどこかに光があるものである

・宇宙より広い

・天に逆えないものである

と出て、くくる言葉に「空間」「希望」「運
命」

そして最後は、「神」と出た。

(南四小・六年男)